

「ヤゴと農薬等資材の関係について」 2011年度 全国統一調査のお願い

田んぼの生きもの調査活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

今年の生きもの調査の年間計画を立てる時期となりました。本年は、生きもの力を活かし、生きものたちに優しい生物多様性農法の推進に役立てていくため、全国統一の項目を加えて、行っていきたいと考えております。

カエルやクモ、トンボの仲間は、田んぼの害虫密度を抑制する役割を持っています。昨今、これらの生きものが、殺虫剤育苗施用材や合成ピレスロイド系水面施用剤などにより、影響を受けている可能性が指摘されています。

また、ミツバチは、畦の草花だけでなく田んぼの水を利用し、巣の温度調節をしていることもわかってきました。田んぼに来るミツバチがカメムシ防除に使用される資材などにより、影響を受けている可能性が指摘されています。

そこで、各地域・各産地で生きもの調査を行う際に、調査を行う田んぼの生産者に育苗箱施用剤の使用の有無、カメムシ防除の有無についてお聞きし、使用している場合は、その薬剤の名称を教えてください。そして、田んぼでアカトンボの群れを見たか、ミツバチを見たかを聞き、シートに記入してもらいます。

「ヤゴの調査」については、生きもの調査（ラインセンサス調査、ランダム調査など）に合わせて行い、金魚網を使用し、ランダムに10回すくい取りし、つかまえたヤゴの数を記入します。

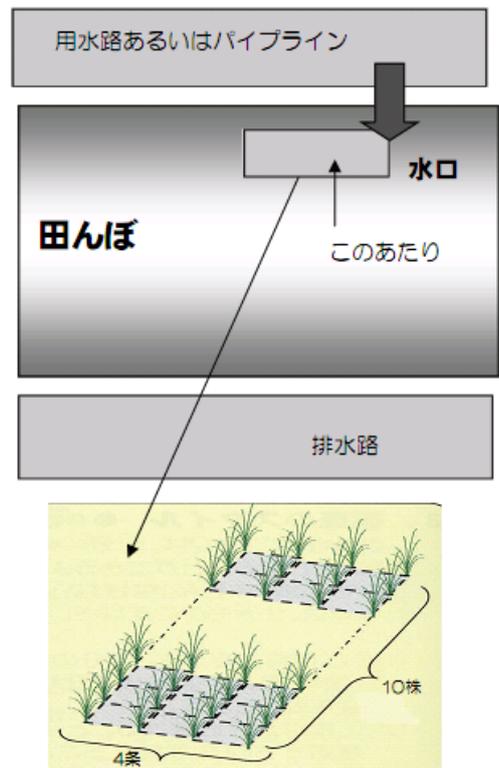
「ヤゴの羽化殻の調査」については、トンボが羽化をする6月中旬から7月の中旬にかけて行います。調査は1日だけでも、数日間行って多く見つかった日としていただいても構いません。

朝は、羽化殻から出たばかりのトンボが殻の近くにいますので、トンボを目印にすると発見しやすくなります。調査をする場所は、水口か水尻近くの、最も水がたまりやすいところの株を40株（4条×10列）を選んで行ってください。数が多い時は、羽化殻をビニール袋に入れて、後で数をカウントしても構いません。

羽化殻は、稲の葉を抱くようについていますので、稲の葉の先の方に抜くように取ると、壊さずうまくはずすことができます。

調査結果は、次ページの調査シートに記入し、下記（BASC宛）にFAXまたは郵送にてお願い致します。個人名や田んぼの所在地、使用の薬剤名については、公表いたしません。今後の生きもの調査活動における情報として活用させていただきます。

調査する場所の決め方



40株を見回して数える

資料提供：上田 哲行 教授
石川県立大学環境科学科
動物生態学研究室

【 問い合わせ・調査シートの送り先 】

NPO 法人 生物多様性農業支援センター

〒194-0211 東京都町田市相原町 4771

Fax : 042-711-7016 Tel : 042-711-7015

E-mail : tambob@basc.jp



